

長期実務実習によって指導薬剤師側に生じた内面的変化

○森川 ^{もりかわ}厚子、花島 ^{あつこ}邦彦、小林きぬ子、
大久保敦子、長谷川万有美、平出 隆一

(一社) 茅ヶ崎寒川薬剤師会 実務実習委員会

【目的】6年制実務実習開始から5年が経ち、指導薬剤師自身の状況を総合的に振り返るべき時期に来ていると考え、長期実務実習指導をすることによって指導薬剤師側に生じた内面的な変化を調査した。同時に薬局実務実習の課題を調査し、考察した。

【方法】茅ヶ崎寒川薬剤師会実務実習委員会では、地域内で実働している指導薬剤師14人全員に対して、平成27年1月にアンケート調査を実施した。当地区の会員薬局数は73、会員薬剤師数121人、アンケート実施時の実習薬局数13である。アンケート内容は、長期実務実習指導を開始する前と、現在の自分を比較した変化、及びその内、学生によって起きた変化を数値化し、更に、自分自身の変化、薬局内の変化、実務実習の問題点等を記述式で回答するものとした。

【結果】有効回答数10人 有効回答率71.4%であった。学生を指導することによって、薬学、教育、医療倫理、死生観等に対する興味が増し、他者への忍耐力が高まり、心理学的、哲学的思考が深まった等との回答があり、その変化は多岐にわたった。指導することによって指導薬剤師が成長することができたとの回答もあり、薬局内に良い変化が生じている例が多かった。しかし、負担が大きく、苦勞している例もあり、現場の工夫で改善策を模索しているケースもあった。学生による影響に強弱はあるものの、何らかの影響を受けている指導薬剤師が多かった。

【考察】内面的変化の有無は、指導薬剤師による個人差が大きく、教育に対して意欲的な人で変化が大きい傾向が見られた。しかし、以前から習熟している分野のある人、例えば心理学に造詣が深い人は、その分野での実習による影響は小さいと答えていた。調査人数が少ないため、指導者側の変化を普遍的には言及できないが、指導薬剤師は、学生を現場で教育することによって、コミュニケーションスキルを向上させる刺激を受け、薬学的知見を深める動機を得、自分自身が成長するきっかけを作ることができるとの結論を得た。しかし、指導薬剤師は、各々異なる個性を有しており、個々の姿勢によって、これらの変化は大きく異なっている。このような変化を、自分自身で自覚し、更に発展させていくことが必要である。

【キーワード】実務実習 指導薬剤師 心理調査